

学級活動学習指導案

日時 平成30年10月26日(金)

場所 盛岡市立大宮中学校 1年1組教室

対象 1年1組

(男子17名 女子17名 計34名)

授業者 教諭 畠山直樹

1 題材名 「自分を知る・友だちを知る」

2 教材について

(1) 教材観

学習指導要領の学級活動の内容(2)のAに「自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」で示されているように、自己の個性を肯定的に捉え、自他の良さや可能性に気づき、それらを生かして協力し合える人間関係を築くことは、社会の中で自己を正しく生かす資質・能力を養う上で大変重要である。

生徒たちは小学校から「自分や友達のよいところを見付け認める」学習などを通して、自他の理解を進めてきている。しかし、学区の3つの小学校(本宮小学校、太田小学校、太田東小学校)から生徒が入学する本校では、新たな人間関係の形成が必要となるが、個性の把握は容易でなく、うまく適応できずに悩みを抱える生徒が少なくない。そこで自分を見つめ友達に目を向けさせることで、友達とは違う「自分」に気付かせ、人は一人一人個性をもっていることを確認させたい。さらに、その個性を認める大切さを再認識させることで、他の理解を深めさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

1年1組は明るく、何事にも前向きに取り組もうとする雰囲気のある学級である。男子は、自分の意見を進んで話をしたり、表現活動で自分を解放できる生徒が多い。しかし、言動や行動に幼さが見られ、他の前向きな姿勢を否定し、足を引っ張ろうとする生徒も見られる。女子は、男子に比べ自己主張は弱い、善悪の判断ができ、学級生活の充実や向上のために、前向きに協力できる生徒が多い。

入学してから半年が過ぎ、新しい集団の中で人間関係の形成をはかってきたが、その中で自分の個性をどのように発揮できているのかを友達の客観的な意見をもとに考え、自己理解を深めさせたい。また、他者への理解も深め、温かい人間関係の形成へもつなげたい。

(3) 指導観とキャリア教育との関わり

① 指導観

自分を知ることは、将来の自分の進路を考える上で欠かせないことである。しかし、自分を知ることとは容易ではない。自分の中に抱える悩みを、自分では明確に把握できずに苦しんだり、解決策を見いだせず悩んだりすることがある。また、自分の内面について他人は知らない

ことを自分だけわかっていたり、逆に他人にはわかっているが自分はわかっていることがあつたりする。さらに、少しずつ明確に現れてくる男女の考え方の違いを理解しきれなかったりする。

そこで、ピア・カウンセリングや、話し合い、ゲームなど、友人とふれ合う活動を通して他者を理解させる。また、自分の考えを相手に伝えさせることで、自己理解を深め、自身を知る機会としたい。

② キャリア教育との関わり

本県が目指すキャリア教育は、時代の変遷とともに「進路指導」から「職業観・勤労観を育てる教育」へ、さらに「社会的・職業的自立に向けた教育へと変化している。それは変化の激しい社会に対応しながら「自立」していくために必要な能力(要素)、自己理解、社会的意識などを育み、よりよい生活への将来設計を営むことができる社会人・職業人が求められているからである。

いわてキャリア教育では、社会人・職業人としての自立を図るために、分類した大きな枠組みを「総合生活力・人生設計力」として設定している。そして、この2つの力に求められる能力を「健康・体力」「豊かな人間性」「確かな学力」「社会を把握する能力」「勤労観・職業観」「将来設計力」の6要素に分類して「具体の要素」として明記している。学校教育の中で以前から我々が大切に、当たり前のように指導・実践してきたものであるが、本研究では身に付けさせたい「具体の要素」をより焦点化し、「意識」しながら指導すること、「意識」させながら学校生活、授業に盛り込み、よりよい改善を図ることが大切であるとする。特に、本研究の副題にもある「人とのつながりを深め、自己肯定感を高める」ことを重点とし、本校生徒に身に付けさせたい具体の要素である「主体性」「コミュニケーション能力」を育む指導を取り入れてきた。

3 評価の基準と本実践における評価基準

「適応と成長」の評価基準

集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動 (知識及び技能)	生活や人間関係の課題の発見と解決のための話し合い、合意形成の意思決定 (思考力、判断力、表現力等)	人間関係等のよりよい形成、生き方の深化と自己表現を図ろうとする態度 (学びに向かう力、人間性等)
集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。	日常の生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。

4 指導計画と評価基準

時数	指導計画	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
1 【本時】	自分を知る・友人を知る	指導案に記載	指導案に記載	指導案に記載

2	悩みや不安を解消しよう	<p>①悩みや不安は、誰にでもあることを理解する。</p> <p>②自分の悩みや不安について知る。</p> <p>③ピアカウンセリングを用いて友だちの悩みを共有し、アドバイスや励ましから自分の悩みや不安の解決方法を考える。</p>	<p>○悩みや不安は、誰にでもあることを理解させ、素直に自分の悩みが出せるように配慮する。</p> <p>○ピアカウンセリングを用いた悩みを共有する活動では、否定的なことを書かないことを確認する。また、相談内容についての秘密は口外しないように確認する。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性】 悩みや不安を理解し、解決することに前向きに取り組もうとしている。</p> <p>【知識及び技能】 悩みや不安は誰にでもあることを知り、その解決方法について理解している。</p>
3	男女の違いについて考えよう	<p>①男性・女性の特性について理解する。</p> <p>②それぞれの特性は学校生活のどのような活動で生かすことができるかを考える。また、性差に制約されない活動についても考える。</p> <p>③男女が協力し合う学級について考える。</p>	<p>○男性・女性の長所・短所について客観的な視点で考える。互いの粗探しにならないように配慮する。</p> <p>○男性・女性の長所を生かし、短所をどう補い合うかという前向きな話し合いになるよう配慮する。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性】 男女の特性を生かし、協力し合って学校生活を送ろうとしている。</p> <p>【知識及び技能】 男女の特性について理解を深めている。</p>
4	学級生活における役割と責任について考え、自分を見つめ直そう。	<p>①学級生活の中での自分の行動について振り返る。</p> <p>②自分の行動について友だちがどのように評価しているかを知り、これからの自分の行動を考える。</p>	<p>○半期の学級生活を振り返り、自分の行動と責任について考えさせる。</p> <p>○友だちの客観的な評価を前向きに捉えさせようにする。さらに、より良い学級づくりにおいて自分がどのように行動していくべきかを考えさせる。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性】 これまでの行動を振り返り、より良い学級づくりのためにできることを考えようとしている。</p> <p>【知識及び技能】 一人一人が学級生活における役割に責任を持つことが、より良い学級生活につながることを理解している。</p>

5 本時について

(1) 本時の目標

- 自分を知るための方法や内容を理解させ、自分の良さに気付かせる。
- 学級内での相互理解を深めさせ、温かい人間関係を構築させる。

(2) 授業の構想

本単元では、自己理解や他者理解を深めることで、自己存在感や共感的理解を育成し、より良い人間関係を育成することである。

本時では、導入で「わたしは誰でしょう？」というクイズを行い、和やかな雰囲気の中で自他の個性について前向きに考えさせたい。

展開では、本時の課題である「自分はどんな個性(良さ)を持っているのだろうか？」について、自分の考える主観的な個性と、友だちが考える客観的な個性を意見交流し、今まで気付かなかった性格や能力に気付く機会としたい。また、学級内の相互理解も深め、温かい人間関係を築くきっかけとしたい。

週末では、本時を通して深めた自己理解をもとに「自分の個性(良さ)」をこれからどのように生かしていくか、それぞれに意志決定させる。そして、それぞれの良さが生かされる学級の中でさらに個性を伸ばし、さらなる成長を目指していくことを確認する。

(3) キャリア教育との関わり

具体の要素【主体性】【コミュニケーション能力】

「主体性」「コミュニケーション能力」を育むために、次の三つの手立てを考え、実践する。

① 内発的な動機付けとなる課題の設定

生徒が主体的に課題に取り組むためには、本時の学習の意味を自分の日常生活や実社会と主体的に結びつける動機が大切になる。そのために本時では、「わたしは誰でしょう？」をきっかけに自分や友だちの個性を理解し、その個性がどのような場面で生かされるのかを前向きに考えさせたい。

② 思考(内化・外化)時間の保障と交流

自分の個性をより深く理解していくためには、主観的に自分の考えをまとめる内化の場面と客観的な仲間の考えを交流する外化の場面で時間を保障し、より深い理解へとつなげていきたい。

③ 振り返りの設定

授業・学習活動において、生徒一人一人が課題を解決し、変容が表れたかを確認する積み重ねをすることで、生徒自身が成長を感じ取ることができ、教師も確認することができる。そして、その成長を実感することこそが、生徒の主体性を育むことへとつながる。

(4) 評価基準

観点	おおむね満足できる	基準に達しない生徒への具体的支援
学びに向かう力・人間性等	自分や友だちの個性について関心を高め、学習活動に意欲的に取り組む。	個別に対応し、性格や行動面から具体的な個性を話させるなど、意欲的に思考できるようにフォローする。
思考力・判断力 表現力	自分の個性や友だちの個性を理解し、その個性を今後の生活でどのように発揮できるかを考えることができる。	個性が生かされる場面の具体を提示し、その中でどのように発揮していくかを考えさせる。

(5) 本時の展開

過程	キャリア教育の視点・学習活動	生徒の活動	指導上の留意点○評価
導入 (10)	1.外化(既習事項の確認) 2.内化(知識の習得) 3.内発的動機付け 内化→外化【主体性】 4.学習課題の設定	1.「わたしは誰でしょう？」を用いて、クイズを行う。 2.「個性」について知る。 3・4.学習課題を理解する。	・場の雰囲気や和ませる。 ・半年間で知りえた仲間の個性や情報を振り返らせる。 ・「一人ひとりが持っている特色」が個性であることを理解させる。 ・本時は個性の中でも、内面に関わる良さについて自己理解を深めていくことを理解させる。
学習課題：自分はどんな良さを持っているのだろうか？			
展開 (30)	5.外化(良さの具体の共有) 6.内化(自己理解) 7.外化(他者理解) 【コミュニケーション能力】 8.外化 9.内化→外化(良さの発揮の仕方) 【コミュニケーション能力】	5.内面の良さやその良さが行動に出ている具体例を共有する。 6.自分の良さについて考え、プリントにまとめる。 7.友だちの良さを考える。 ・班員の良さを考え、付箋に記入する。記入した付箋は交換する。 8.仲間が教えてくれた良さから自分が意外だったものを発表する。 9.自分の良さは学校生活のどのような場面で発揮されるか考える。 ・班内でそれぞれの良さがどのような場面で生かされるかを考える。	・良さがより具体的になるように、内面の良さの具体からその良さが行動に表れる具体を出させる。 ○自分の個性について考えているか。【学びに向かう力・人間性等】 ・どんなに小さなことでも仲間の良さを見つけてあげるよう声掛けする。 ○自分や友だちの個性に理解を深めているか。【学びに向かう力・人間性等】 ・意外だった内面の良さがどのような学校生活の場で生かせるか追質問し、次の話合いにつなげる。 ○自分や友だちの個性が発揮される場面について考えているか。 【思考力・判断力・表現力】
終末 (10)	10.内化→外化(自己決定)【主体性】 11.外化 12.内化→外化(振り返り)	10.これから自分の良さをどのように生かしていくか考えをまとめる。 11.自分の良さをどう生かしていくか発表する。 12.本時の学習を振り返り、わかったことや感想をまとめる。	・本時の学習を通しての気づきや変化を大事にし、これからの生活にどのように生かしていくか意志決定する。【思考力・判断力・表現力】

